



どうも、製作担当の青木です。私ごとですが、先月30歳を迎えました。幼少時向かいに住んでいた、よく遊んでくれた年の離れたお兄さんが結婚した時の年齢。社会人1年目、業務の基礎を厳しくも丁寧に教えてくれた先輩の年齢…。これまでの人生を顧みた際、“自分の懂れていた30歳”というものに掠りもしていない現状に打ちひしがれる(かと言って特に動く訳ではない)この何とも言えない感じ、偉い人が名前でも付けていないもののでしょうか。今年の目標は「ポジティブな焦りを持つこと」にしようかなと思想に耽っています。

さて今回のタイトルは「VS.」です。突然ですが私、辛い物が他の人よりも少々好みでして。休日はよく辛麺や四川系の中華屋に足を運び、提供される料理と格闘を繰り広げています。昔はそこまで辛い物が大好き！という趣向ではなかったのですが、コロナ禍前の2020年初頭に友人から紹介された中華屋で出てきた刀削麺（そこそこ辛め）に感銘を受けてしまい、そこそこの頻度で身体が辛い物を求める一種のモンスターと化しました。そして先週、職場近く（小伝馬町近辺）で昼食のため入店したラーメン屋のメニューで見つけしまったんですね。「特製辛スタミナ中華」の文字を。画像で見る限りは日〇屋の辛味噌ラーメンのような雰囲気。全然余裕そうだなと思い注文…ここまでは良かったんですね。問題は提供前の問答で、

店員さん「辛さ、どうしますか？」

私「どの位まで辛さいけますか？」

店員さん「1～5の段階があって…
1が一番辛いですね！」

マヌケ私「1をお願いします^^！！」

店員さん「承りました！！」

数分後



カプサイシン欲求モンスター



真剣な眼差しで唐辛子パウダーをドサ盛りする兄ちゃんを見守る図

何故辛さの強弱を尋ねなかったのか、何故無駄に元気な声で最辛と返答してしまったのか…。先ず前提として何故ゆえ平日の昼に辛い物を食べようと判断したのか。麺も具材も確かに美味しかったのですが、途中から口と胃が内側から灼けるような感覚になり、真顔で食べていたであろう記憶が残っています。完食は果たせましたがスープは殆ど飲めず、最後まで愉しんで食べることが出来なかったことが、心残りです。

— YOU LOSE ! —

次回は ~~油断せず、もう一度1辛に挑戦~~ 普通の特製スタミナ中華を頼んでみたいと思います。